

市長記者会見記録

日時：2021年1月4日（月）14時00分～14時35分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《令和3年の年頭にあって》

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。

初めに、令和3年の年頭に当たりまして、福田市長から御挨拶させていただきます。

それでは、市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 改めまして、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

年始早々、緊急事態宣言の話ですとか1都3県の取組など、非常に多難な1年の始まりということでもありますけれども、一刻も早く感染状況を収束させる努力と、それから、ワクチン接種というような、そういった事業にもしっかりと取り組んで、市民の命、生活、仕事、ひいては希望を失うことがないように、日々住民に一番近いところで仕事をしている者としてしっかりとその責務を果たしていきたいと思っております。報道の皆様にも、ぜひ必要な情報を正確に的確にタイムリーにお届けいただくようお願いしたいと思いますし、私ども、昨年、いろんな報道対応についての課題がたくさんありましたけれども、しっかりとその点は改めるべきところは改めて、皆さんにちゃんと伝えてまいりたいと思っております。では、今年一年、よろしくお願ひいたします。

【司会】 それでは、市政一般も含めまして質疑応答に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願ひいたします。

《市政一般》

《新型コロナウイルス感染症について》

【読売（幹事社）】 市長、よろしくお願ひします。幹事社の読売新聞です。先ほどお話にもありました緊急事態宣言が1都3県に再び出る方向で検討が進められているとの報道が出ております。これについて率直な受け止めをお願ひいたします。

【市長】 感染状況が高止まりして、減少傾向が見られないという状況からすると、非常事態宣言もやむを得ない状況に入ってきているのではないかなという思いもいた

します。一方で、コロナの感染もそうですけれども、緊急事態宣言、その前に1都3県の大員からの要請事項というものが、かなり厳しい要請事項となっていますので、これによる経済の冷え込み、そして何よりもやはり雇用の問題が大きくここで負荷がかかってくるので、そういった意味で、感染症による命の問題と地域経済の疲弊による命に関わるようなそういったことを、どちらを優先するという形ではなくて両方大事な命なので、そこをしっかりと国とも連携してやっていかなくちやいけないなと思っております。本当に高止まって、医療現場も逼迫（ひっばく）感がますます高まっているので、そういう状況から見れば、もう致し方のない状況かと思っております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。あと、三が日過ぎましたけれども、市長のところには今、市内の感染状況というのはどういう情報が入ってきていますでしょうか。

【市長】 今日時点だと113人、4人という入院患者のところが出ています。今、即応病床126ありますけれども、これをやはり今月中旬までにはさらに138まで高めていこうということでもありますし……、失礼しました。昨年末ですね。138（~~138~~）というのは12月31日までに準備した数でありますけれども、今月中旬までには準備病床としていた180床、これを全て即応病床にすべく今準備をお願いしているところでありまして、今、そういう状況であります。重症患者さんは現時点では14人ということで、年末というか、それほど劇的に増えているというわけではありませぬけれども、中等症以上の方が非常に増えている状況を鑑みますと、本当に通常の医療、地域医療をかなりいじめている状況ですので、それがさらに厳しさを増してくるということは非常に危機的な状況だと思っております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。加えまして、先ほどお話に出ました地域経済の問題なんですけれども、飲食店など、主に午後8時までの営業を要請するよという話も出ております。さらに、給付金と罰則がセットになった特措法を次の国会に提案するという話も出ておりますが、地域経営への影響について、この点についてはどのようなお考えでいらっしゃるのでしょうか。

【市長】 特に国のほうでも、また私たち、クラスターの状況なんかを見ますと、急所と言われているところの飲食店、それから、職場といったところでクラスターが発生しているという状況を鑑みれば、そういうところは対策を取っていかなくちやいけないというのは十二分に市民の皆さんもよく理解していただいていると思っております、一方で、長期間にわたりますと、飲食店をはじめ、サービスを提供しているところは非常に厳しい。年末も厳しかったけど、それが年明けもずっと続くと。先行きがな

かなか見通せないという状況は、給付金が出るといえども、かなり深刻になると見ています。

特に非正規の雇用のところはかなり打撃を受けるのではないかと心配しております、この辺りの情報は極めて細かく見ていきたいと思っておりますし、必要な情報を取りながら、国ですとかに情報共有をして、政策に結びつけていく、あるいはいただくというのをやっていかななくちゃいけないと緊迫感を持っております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。最後に、ワクチンなんですけれども、2月下旬までに接種できるようにという話が先ほど総理から出ました。この受け止めはいかがでございましょうか。

【市長】 正直、2月下旬というのは、私どもも、びっくりしました。昨日までは3月という、年度内にはという感じであったんですけれども、総理のお言葉では2月ということですので、どういうふうに準備するのかというのが、年末に第1回目の自治体への情報提供があったばかりでありますので、その後の情報提供をしっかりと待ちたいと思っておりますし、何せ、なかなか複雑な取扱いが必要なものですから、かつ、かなり関係者が多くならざるを得ないということは承知しているので、早く情報をいただきたいと思います。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

各社さん、お願いします。

【朝日】 朝日新聞ですが、よろしく申し上げます。先ほどの緊急事態宣言の話で、前回の緊急事態宣言、かなり広範囲にいろんな行動制約が伴っていたと思います。今回はこれから検討するということですが、市長としては、どういうことはやらないでほしい、どういうことはもっとやるべきだ、もし御意見ありましたらお願いします。

【市長】 少なくとも、政府の分科会の尾身会長もおっしゃっていましたが、学校での休校措置というのが果たして有効だったのかという懐疑的な話というのがありますし、今、市内の学校でも、いわゆる子供同士でクラスターが発生しているというケースはほぼないと見ていますので、学校を休校するというのは、子供たちにとっても、そして家庭にとっても物すごく負担が大きいものですから、そういった意味では、学校の休校措置というのは、科学的見地から言ってもそれはないだろうとは思いますが、それは避けていただきたいなとは思っています。できれば本当にあらゆる場面で、なるべく抑制的にやるべきだとは思いますが、一方で、このような感染状況ですから、打てるべく、いわゆる急所をつくという言い方をされているんだと思います。

が、そういったところの、極めて限定してやっていくということが、社会機能を維持していくという意味でも大事なのではないかと考えています。

【朝日】 抑制的というのは、制約を加えることを抑制的という……。

【市長】 そうですね、はい。全てをシャットダウンしてしまうということをやってしまうのが本当に効果的だったのかというのを、私たちはこの半年以上の間、大分学んできた部分もあると思います。この学んできた部分を、次の緊急事態宣言の中では反映させていくべきだろうと思います。

《令和3年川崎市「成人の日を祝うつどい」（成人式）について》

【朝日】 関連して、成人式であるとか、これから年度末に向けての学校行事みたいなものが、市としてやらなきゃいけないことって、準備しているものがあるかと思うんですが、それらについてはどうお考えでしょうか。

【市長】 目下、一番大きなイベントと言えば成人式になるわけですがけれども、政府のほうで今週中にも緊急事態宣言ということになれば、当然、イベントの開催の在り方ということも、どのように制限を受けてくるのかというのは注視をしていきたいと思っています。判断はこの数日中になると思います。万が一中止するということになれば、あまりにもその影響が大きいと思いますし、ただ、式典自体は万全を期してやれるという自信は持っていますが、一方で、その後の飲食だとかを伴うようなこと、あるいは密になるような環境をどうやったら防げるのかということには一定程度の限界があるとも思っています。そうした中での最終的な判断をどうするかというのを、いろんな関係者、国、あるいはほかの自治体とも御相談をしていきたいなと思っております。

《新型コロナウイルス感染症について》

【東京】 東京新聞です。コロナに関連してですがけれども、現在、県独自の時短要請は既に続いている状況ですがけれども、この年末年始も含めて、川崎市内の取組状況、それから、それがどのくらい功を奏したかという部分の受け止めについてお伺いできますでしょうか。

【市長】 私も全部見ているわけではありませんが、いろんなところから聞こえてくるのは、時短をされているところというのは、繁華街を中心に、それほど多くないとは聞いていますし、見ていたりもします。それというのは本当に、経済との裏表のところがあって、やらざるを得ないという状況も十二分に理解できます。一方で、これから緊急事態宣言で、さらに8時までとかという話になりますと、酒類のところは7時とかということになった場合はより厳しくなってきますし、そういった意味では、ここがクラスター発生の割合がかなり高いものですから、そこは何とか御理解をいた

だけるようにお伝えし、協力を求めていかなくちやいけないなどは思っています。

休業要請の金額についても、やはりかなりばらつきがあるというか、本当にこじんまりやっておられて、それで要請に協力金で賄えているところと、今回は1店舗ずつと言いながらも、とは言っても、従業員を多く雇っているところですか、そういったところでは、4万円だ、あるいは5万円だみたいな話というのはとてもとてもという、その気持ちも十分に分かります。ですから、そこに、やはり実態と協力金のところはどうしても乖離が生まれてしまうというのは、制度上、非常に難しいところだとは思っています。実態をどうやって見分けるのかという、そもそもが難しいので、私が言っているのは非常に理想的な話をしていますが、理想というのは現実はなかなか埋めがたいものがあるというのは本当に事実だと思います。ですから、どこにどうしろああしろということよりも、非常に厳しいなという、その認識ということでございます。

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、緊急事態宣言、これからということで、まだこれから始まるという状態だと思うんですけれども、そもそもどうなったら収まったというか、緊急事態宣言じゃなくなるというような条件といたしましょうか、その辺についてはいつぐらいまでそういう状態が続くことになるのでしょうか。

【市長】 いわゆる国の示している指標のところの一つの基準になっていると思いますが、それはどう国が御判断されるかというのは、当事者ではないので申し上げることはできません。それと、今の何でしたっけ、もう一つは。

【神奈川】 緊急事態宣言が解除できるのはどんなことになったら……。

【市長】 国の持っている医療体制の数値ですとか、様々な数値を基に御判断されることになるんだと思いますが、それについては、私、何とも、当事者ではないので。

【神奈川】 今の病床の状況とかを鑑みて、緊急事態宣言を出されるとしたら、そういう状況をどれぐらい続けなきゃいけないと、今のところ、思われていますでしょうか。

【市長】 これからどれだけ人の流れが抑えられるかということによるのではないかと思いますけれども、少なくとも昨年の状況で、北海道ですとか大阪だとかは、人の流れが少なくなることによって感染状況が収まってきているというのを見ますと、首都圏でも現時点、それほど落ちてないということですから、年末年始は大分落ちているとは聞いていますけれども、この効果がどういうふうに見えるかということ、やはり見ていかなくちやいけないんじゃないかなと。もう極めて科学的な話だとは思っています。

【時事】 時事通信です。2点ほど伺いたいんですが、まず1点目なんですけど、今回、時短要請を強化するという事で、黒岩知事は11日より前に、今の時短要請が終わる前に早くやろうという話をされていると思うんですが、一方で、特措法が改正されてなくて強制力がない中で、4万円がちょっと増えるという話ではありますけど、この実効性についてはどう考えられていますでしょうか。

【市長】 おっしゃるとおり、強制力がない中でというのは一定程度の限界はあると思います。そのところをやはり、事業者の皆さんも厳しいのは非常によく分かりますけれども、このままずっとだらだらと感染状況が続くようだと、さらに影響が長期化するだけで、誰にとってもよくない状況だと思いますので、そういう意味では、短期にシュッとやって抑えていくということは大事かと思います。

【時事】 今のところ、川崎市と横浜市合わせて大体2割ぐらいしか協力されていないということなんですけれども、今後増えたとしても、あまり期待できないんじゃないかなという感じもするんですが、そこら辺はどうですか。

【市長】 少なくとも、この年末年始、大分皆さん、意識高く行動されたのではないかなと思われるところもあります。そこに大いに期待したいと思いますけれども、これからも、やはり国からの緊急事態宣言というのをしっかりと市民の皆さん、事業者の皆さんにもぜひ御理解をいただくように、これは危機感を共有していかなければならないとは思っています。

【時事】 あと、もう1点。県のほうで、市町村となかなか感染状況に対する情報共有ができてないということで、今後、より緊密にやっていこうという話が出ているんですけれども、これについて市長としてどういうお考えでしょうか。

【市長】 私としては、県からのいわゆる措置みたいなものが出てくる前に、しっかりと情報共有するようにしてくださいとということを、これまで非常に足りていないということで繰り返しお願いしておりましたので、そういった意味では、年末年始、いろんな情報交換はさせていただきました。これからも引き続いて、いろんな厳しい措置が取られることになると、市内への特に事業者、市民の皆さんへの影響は非常に大きいものですから、そういった意味で、どういうことをやっていくのかというのを、知事なり県の考え方をしっかり事前にお示しいただきたいと思っています。

【時事】 ありがとうございます。

【朝日】 朝日新聞です。1月半ばまでに即応病床を180床に拡大していくように要請をするということなんですけれども、現時点においても、川崎の場合、自治体病院がかなり大きなプレゼンスを占めるかと思うんですけど、医療現場のしわ寄せがい

っているところはかなり限定的というか、あまねくにいつているというよりは、かなり負担を強いられているところとそうじゃないところがあるかと思うんですけれども、その辺りは市長、どう御覧になっていますか。

【市長】 いろんな見方があると思うんですが、コロナ陽性患者さんを受け入れてくださっている病院と、それから、実際に受け入れていない病院、受け入れてない病院が悪いということでは全くなくて、そこはそれ以外のところを診ていただいているので、ある意味、一連の中で地域医療は成り立たせなくちゃいけないというものですから、そういった意味では、それぞれの病院の特性だとか規模だとかということに併せて、みんなで分担をしていこうということの体制が必要だと思っています。民間の病院のところでも、こういったところはもう少し御協力いただけないでしょうかという調整は常にやらせていただいて、御協力いただいているところもありますので、ここはやはり診療科だとかそういうところも含めて、ここは受け入れてないから何とか受け入れろと言っても、それはちょっと冷静さを失っている議論だと思いますので、そこは地域全体の病院のバランスを考えた上で、お願いできるところをしっかりとお願いしていくということをこれからも粘り強くお願いしていかななくちゃいけないと思っています。

【朝日】 実効性を担保するという意味では、今だとあくまでもお願いベースにとどまるわけですね。一方で、話は変わりますけれども、特措法の改正の議論で、例えば飲食店で時短要請に従わないところには罰則もという話がある中で、医療について、全体のバランスがあるというのは理解はできますけれども、恐らく通常診療であったり救急の受入れとかに逼迫した状況は、コロナを受け入れるような病院で起きていることだと承知しているんですね。特措法の改正、法律ですのですぐという話にはなりません、そうしたところをもうちょっと医療面での供給体制の確保というところで、今の要請よりも強いものが得られるようにしていきたいとか、そういったお考えをお持ちですか。

【市長】 単純に、これだけ増えているんだから、この病院にぶんぶんぶんと割り当てていくことができれば非常に理想的なんです、そこはやはり、それぞれの病院の事情だとかということ、様々ありますので、そこはしっかりと勘案しないと、それぞれにとってみんなよくないんじゃないかなと思っています。ただ、例えば、もう感染力がなくなって転院していいと。ある意味、必ずしも感染対策とか、一般病床に移っていいよというところの受入れ、そこをもう少しうまくスムーズにできたらいいなということは実態としてはあります。そこに対する協力ももっとお願いしているという

ことでありますから、そういう意味では、みんながみんな中等症以上を診れる環境にあるかと言ったら、そうではないので、そういう意味では、これまでも高度、重点、協力病院だとかという形で3段階に分けていますから、そこをやはりバランスよくやっていくことが大事だと思っています。とにかく、このバランスというのがとても大事で、それが重症、中等症、あるいは宿泊機能も含めたバランスをやっていかないと、上り、入院でだんだん重症化していくのと下りのラインをうまく回すことで病床全体を考えて今調整しているの、どこの病院が受け入れている、あるいは受け入れてない、どこがとかという形になってしまうと、ややバランスを欠いた議論になるのではないかと思っているので、そういう見方を私どもはしているということです。

【朝日】 特に特措法の改正で何か、医療提供体制について要望していくということはない……。

【市長】 うーん、それはあり得るのかもしれませんが、何か強制力を働かせれば実態が動くのかというのは、専門家ではないので分かりませんが、やや懐疑的には思います。要するに、能力が整わないところに患者さんを運んで、果たして医師は大丈夫か、看護師は離れないかという、そういったところまで考えなくちゃいけないところですので、そもそもその措置自体が地域医療そのものを破壊してしまう可能性もあるということで、丁寧な協力要請と受入れ体制を確保していただくことをやっていかなきゃいけないとは思っています。

【朝日】 しつこいようですが、これで最後にしますが、おっしゃっているバランスであったりとか上りと下りの調整、その辺りをきめ細かくしていくというのは全く理解できるところではあるんですけど、一方で国民の間では、感染者数においても、欧米などに比べたら桁違いに少なくという状況の中で、やっぱり医療の供給体制が逼迫していて、危機の手前ぐらいにあるということが、にわかには胸に落ちない人たちもいるわけですね。やっぱり、こういう事態になぜなるんだということについて、ちょっとした憤りを覚えている人たちもいると思うんですけど、その辺りの人たちにはどう御説明していきますか。

【市長】 欧米の医療体制と我が国の医療体制のところを比較するというのは、あまりこの段階で議論としてかみ合わないのではないかなとは思っています。議論としては分かります。ざっくりとした国対国の比較みたいなのは分かりますが、私どもの今実態と、欧米で何で、川崎市でどうなのというのはちょっと議論としてかみ合わないかなと思います。

【朝日】 それは体制が違うからということですか。

【市長】 そもそも医療の供給体制というものは違うと思います。

【朝日】 でも、この人数でこれだけ逼迫して、それだけではないんですけれども、そうやって医療体制が一つのファクターになって、一方で経済活動の自粛を求めなければいけないというのは、やっぱりもうちょっと供給のほうにかける、そこを増やしていく努力がされてしかるべきかとも思うんですけれども。

【市長】 病床の数としてそれほど日常的に、これまでも日本は病床が比較的多いのではないかというようなことを言われている中で、そういう中でもみんな、通常の医療と今回のコロナで危機的な、緊急事態を両立させているということですから、その中で本当に日々の、みんな必死になってやっているのも、あまりここで、国全体の医療構想みたいな話というのなかなかみ合わないのではないかなとは思いますが、よろしいでしょうか。

《令和3年川崎市「成人の日を祝うつどい」（成人式）について》

【時事】 確認なんですけど、成人式は、今のところ、やる方向でいいんですか、それとも、一から検討する、そういう判断ですか、どちらでしょうか。

【市長】 これまでもやる前提で準備を進めています。やる前提で進めています、この判断というのは、この数日中に変わる可能性もあり得るということでございます。ですから、今、必ずやりますとも言えませんし、やらないとも言えませんしという、現在進行形の話だと受け止めていただいで……。

【時事】 一応やる方向で考えていて、何かあったら変わるかもしれない、そういう理解でよろしいですか。

【市長】 事態は刻一刻と変わっていますので、今日、私のこの午後2時の段階での判断が数時間後にある意味変わる可能性もありますし、ということで御理解をいただきたいと思います。

《新型コロナウイルス感染症について》

【テレビ神奈川】 テレビ神奈川です。事業者のところ、緊急事態宣言が出るとなれば、大変厳しい状況になるかと思うんですけれども、事業者へ向けて経済対策等、川崎市はこれまでもいろいろやってきましたが、今後、何かまた追加での経済対策等は今の段階で検討はされていますでしょうか。

【市長】 今の段階では、追加の経済対策という意味では、現時点でこれというのはありません。ただ、今後可能性としては否定はしませんという感じです。

【テレビ神奈川】 ありがとうございます。

【朝日】 すいません、もう一度、朝日新聞ですが、何問か前の県との情報共有に関

連した質問なのですが、県がほかの1都2県と一緒に緊急事態宣言の要請を政府に1月2日にやっていますけれども、その事前の打合せというのは市との間ではどのようになされたのでしょうか。

【市長】 ありました。副知事、副市長間、知事と私というのは、年末年始、何度もございました。その中でやり取りはしておりました。

【朝日】 ということは、要請をするということについては、川崎市としても同意しているという状況だったのでしょうか。

【市長】 「同意」という言葉ではないんですけれども、ある意味、情報提供を受けたということが正確な言葉かと思います。

【朝日】 じゃ、それに対して、特に異論などを言ったわけではない……。

【市長】 その間にいろいろありました。その間にはあったんですが、状況がものすごく急展開を示したので、驚く場面はありましたけど、その間にはいろいろとありました。

【朝日】 関連して。報道ベースですけれども、恐らく1日の段階では、知事は要請については割と慎重な姿勢を、ぶら下がりの会見で話していたかと思うんですけど、2日になってかなり動いたかなとも見受けられるんですが。

【市長】 私もそのような認識でいます。

【朝日】 具体的には何……。

【市長】 これ、知事との話した相手があることですから、詳しくは控えさせていただきたいんですが、今おっしゃられたような、1日時点では慎重な態度だったと私も理解しておりますし、2日に事態が動いているということは、私もそのように思っています。知事とのやり取りについては、申し訳ありません、控えさせていただきたいと思います。

【神奈川】 先ほどの質問であった、今後、市の経済対策について、今のところないけど可能性は否定しないということですが、そういう段階で聞くのも何なんですけれども、例えば、直接事業者を金銭的に支援するとか、地元の意見みたいな、消費を喚起するような策とかいろいろあると思うんですけども、今のところ、検討されているようなもの、話題に上っているものってありますでしょうか。

【市長】 基本的には、いわゆる規制と補償はセットだということをこれまでずっと言ってきましたし、その枠組みでこれまでも進んできていると思っています。そうした意味で、これからもその方針に変わりはありませんけれども、それ以外のことが考えられるのかどうかというのは、これからの事態をしっかりと見守っていきたいとは思

っています。見守っていきたいというのは、極めて受動的な話じゃなくて能動的に見ていきたいとは思っております。

《市長の年末年始について》

【読売（幹事社）】 話題は変わるんですけども、市長はこの年末年始はどのようにお過ごしだったのでしょうか。

【市長】 本当に静かな、静かというか、ものすごく緊迫感のある年末年始でありました。病床の話も先ほど申し上げましたし、県とのやり取りの話もそうです。一方で、天皇杯もありまして、私も見に行かせていただいたんですが、非常にうれしいニュースでしたし、幸先いいニュースを川崎に届けてくれたので、こういうニュースが今年は続くといいなということを思いながら活躍を見ておりました。あとは、基本的には自宅におりました。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

（以上）

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

（お問合せ）川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044（200）2355